



メインエントランス側外観

京都市京セラ美術館 / 改修

日本最古の公立美術館建築の姿を最大限保存しながら人の記憶に新たな像を重ねていく

現存する日本の公立美術館の中で最古の、日本趣味建築を代表する建築の改修増築計画である。美術館のいきいきとした姿を後世に残しながら現代のニーズに応える「保存と活用」をどのように成すべきかが課題であった。京都市美術館の本館は前田健二郎の設計によって1933年に開館して以来、多くの来訪者を魅了し、文化的な中心地としての役割を果たしてきたが、築後80年あまりを経て各所で老朽化が進行していた。そこで西側広場をスロープ状に掘り下げ、かつて下足室だった地下室を新たなエントランスにすること、そこから東側の日本庭園へ抜ける貫通動線をつくることを骨格とし、展示・収蔵施設の増築、本館のバリアフリー化、中庭の再生、タイル補修など全面的な修繕と改修を行った。既存の内外装タイルの焼きムラやわずかに不揃いな質感が、美術館の長い歴史を伝える表情となっていた。その空間の雰囲気を変えないため、機能的に補修が必要な最小限の箇所を、目立たないように再製作したタイルで置き換えた。



外観全景

DATA

施主：京都市
 設計：青木淳・西澤徹夫設計共同体(基本設計・監修)
 株式会社松村組・株式会社昭和設計(実施設計)
 施工：株式会社松村組
 所在地：京都府京都市左京区岡崎門勝寺町124
 竣工：2019年10月

商品情報

外装壁タイル：*1)FT-232*133.5T=20.0/OM4914+キヨウトシビジュツカン(6色均等MIX)
 *11)FT-227*70T=13.0/OM5063-24

掲載内容及び写真・図版の無断転載はかたくお断りします。(許可なく転載・流用した場合、損害賠償が発生します。)

外観



メインエントランス側外観(ライトアップ)



日本庭園側外観

外観



開口部周辺

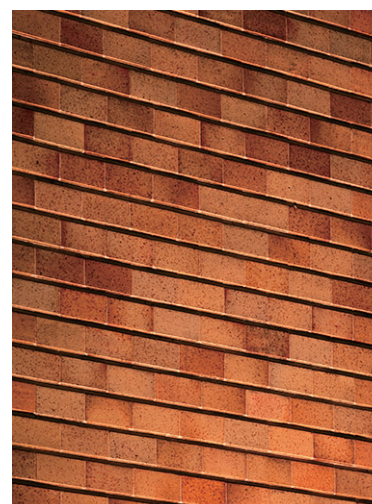


コーナー部



一般部

ディテール



斜め見上げ(ライトアップ)



斜め見上げ



正面



光の広間

京都市京セラ美術館 / 改修

日本最古の公立美術館建築の姿を最大限保存しながら人の記憶に新たな像を重ねていく

現存する日本の公立美術館の中で最古の、日本趣味建築を代表する建築の改修増築計画である。美術館のいきいきとした姿を後世に残しながら現代のニーズに応える「保存と活用」をどのように成すべきかが課題であった。京都市美術館の本館は前田健二郎の設計によって1933年に開館して以来、多くの来訪者を魅了し、文化的な中心地としての役割を果たしてきたが、築後80年あまりを経て各所で老朽化が進行していた。そこで西側広場をスロープ状に掘り下げ、かつて下足室だった地下室を新たなエントランスにすること、そこから東側の日本庭園へ抜ける貫通動線をつくることを骨格とし、展示・収蔵施設の増築、本館のバリアフリー化、中庭の再生、タイル補修など全面的な修繕と改修を行った。既存の内外装タイルの焼きムラやわずかに不揃いな質感が、美術館の長い歴史を伝える表情となっていた。その空間の雰囲気を変えないため、機能的に補修が必要な最小限の箇所を、目立たないように再製作したタイルで置き換えた。



外観全景

DATA

施主：京都市
 設計：青木淳・西澤徹夫設計共同体（基本設計・監修）
 株式会社松村組・株式会社昭和設計（実施設計）
 施工：株式会社松村組
 所在地：京都府京都市左京区岡崎円勝寺町124
 竣工：2019年10月

商品情報

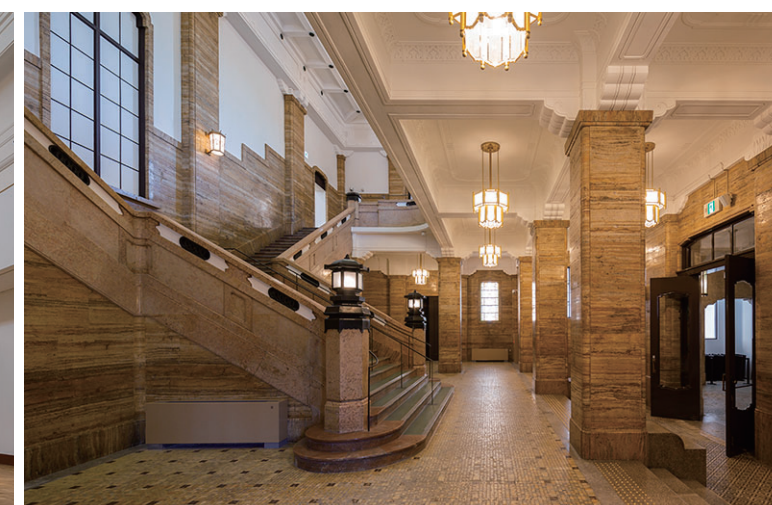
外装壁タイル：*21)FT-232*133.5T=20.0/OM4966-37
 内装壁タイル：*41)FT-227*60T=13.0/OM5037-201:205:206:207=1:1:1:1
 *31)FT-227*70T=13.0/OM5064-7

掲載内容及び写真・図版の無断転載はかたくお断りします。（許可なく転載・流用した場合、損害賠償が発生します。）

内観



中央ホール

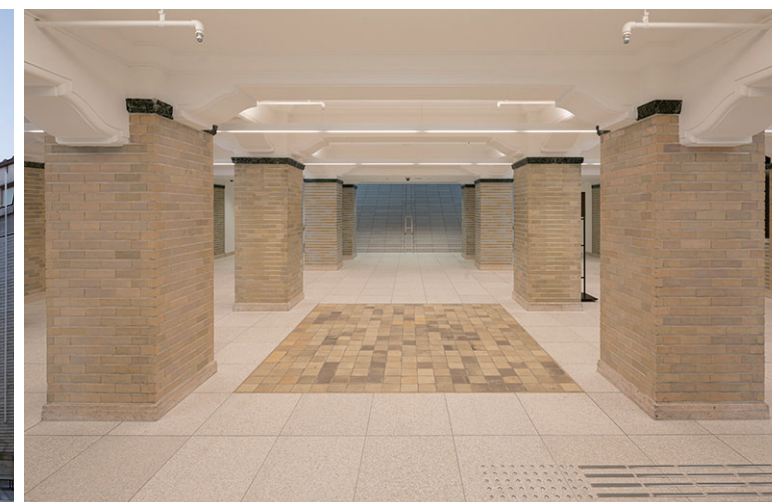


西広間

外観・内観

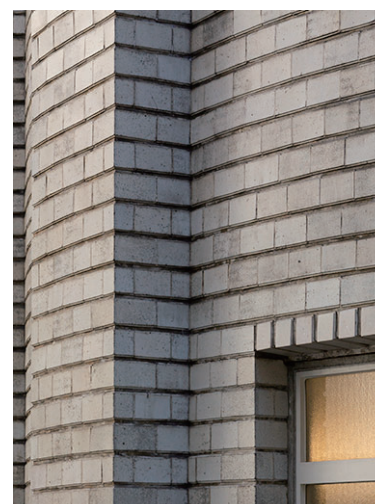


天の中庭



地下室を改修したメインエントランス

ディテール



既存のタイル



部分的に張り替えたタイル



既存のタイル



新設したタイル